

組織目標評価報告書（平成27年度）

部局名：

工学部

部局長名：

富田 栄二

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	自己評価
①-1 目標 「教育の実施体制について」 (1)工学部共通コア科目を継続実施し、内容についても引き続き改善を検討 (2)工学教育外部評価委員会の継続開催と指導事項の改善検討 (3)岡山県工学教育協議会に参加し、工学教育に関する検討 (4)ヒアリングの継続実施 (5)表彰(教育貢献賞とベストティーチャー賞)の継続実施 「教育方法・内容について」 (6)H28年度、60分、4学期制導入に向けたカリキュラム編成の検討 (7)経済学部との協力による合同科目「実践的コミュニケーション論」のつくり経営論」を継続開講 (8)企業等からの非常勤講師による実践型教育を継続 (9)ITコンピテンシーのための授業内容検討 (10)教育年報の発刊 「教育の成果(学習の成果、卒業後の進路)について」 (11)例年通り、極まれな例を除き卒業生全員を大学院進学(約2/3)および就職させること (12)Q-camを利用した学生の達成評価のための傾向分析とデータ蓄積 「学生支援について」 (13)学生フォーミュラ、ロボコン研究会活動への支援 (14)就職支援活動「機械系エンジニアの歩き方」卒業生との就職意見交換会」の継続実施など、各学科での就職支援強化 (15)留学生との懇談会開催 「その他」 (16)入試広報に例年通り力を入れる(オープンキャンパスで女子生徒を対象としたプログラムの実施、フロンページ主催の夢ナビプログラムへの参加、工学フォーラム2013への参加、新聞(読売、日経等)を利用した岡山大学工学部としての情報発信、工学部独自の出版講座をはじめとする高大連携事業での学生の派遣、岡山県内高等学校教員との懇談会、高等学校進路指導担当教員との懇談会、岡山大学と工業系高校との教育懇談会、学科独自の高校教員との懇談会開催など)	目標で掲げた左記の内容をすべて実施した。 さらに、目標として記載した項目以外に新たに以下を行った。 左記の項目に関しては、 (5) 3月2日開催の教員会議にて、教育貢献賞では6名と1グループを、ベストティーチャー賞では8名の教員をそれぞれ表彰した。 (16)のうち、工学フォーラム2013への参加、新聞(読売、日経等)を利用した岡山大学工学部としての情報発信の実績は、11月22日開催の「工学フォーラム2015」へコーディネーターとして参加し、高校生等を対象に工学部を発信したことである。 さらに、新聞を利用した情報発信では、朝日新聞企画の「工学系学部長連合企画」、読売新聞企画の「工学系学部長からのメッセージ企画」、日本経済新聞企画の「紙面談話会」にそれぞれ参加するなど、岡山大学工学部の魅力や特徴などの情報を発信した。 目標とする客観的指標については、志願倍率(学部入試倍率・前期日程)は2.1倍であり、2.0倍は確保できたものの、目標の2.3倍を下回った。昨年度は2.4倍であり、揺り戻しの影響があるかもしれない。後期入試では実質倍率が昨年度よりも低下(5.39から4.61倍)した。平成28年度は広報に、より力を入れて、志願倍率向上に努めたい。
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
(1)志願倍率(学部入試倍率・前期日程)の目標を2.3倍とする。 (平成23、24、25、26、27年度は1.9、2.6、2.2、2.3、2.4倍であった。H27年度は過去5年の平均値である2.3倍を目指した)	
②研究領域	自己評価
②-1 目標 「外部研究資金等の獲得の推進」として、以下を継続実施する (1)研究成果(論文など)の公表(工学部研究年報・H25年度分から教員評価システムとリンクさせている) (2)教授会での外部資金獲得状況の報告(毎月) (3)科研申請状況の把握と申請の依頼 (4)科研申請の支援(研究科と協力して実施) (5)産学連携推進委員会を通じて、知恵の見本市等への出展補助制度の継続実施 (6)表彰(研究功績賞)の継続実施 (7)工学部との研究交流会開催	目標で掲げた左記の内容は(5)以外はすべて実施した。 目標とする客観的指標については、以下の状況であった。 (1)科研申請率は100%であり、目標を達成できた。今後も、研究科と連携して、向上に努めたい。 (2)科研採択率は24.6%であり、昨年(26.5%)を下回り、目標(30%以上)を達成できなかった。研究科と連携して、向上に努めたい。 (3)外部資金獲得は、昨年度に比べ、3月18日現在で、以下の状況にある。 ・共同研究(件数103件:117%、金額1.69億円:110%) ・受託研究(件数54件:100%、金額5.84億円:127%) ・奨学寄付金(助成金)(件数41件:75%、金額0.31億円:56%) ・奨学寄付金(その他)(件数47件:100%、金額0.24億円:68%) 合計として、件数は245件(過去5年平均比110%、前年比100%)であり、金額は8.09億円(過去5年平均比172%、前年比115%)と大幅に増加し、目標を十分達成できた。 また、目標②-1(6)3月2日開催の教員会議にて、研究功績賞として5名の教員を表彰した。 (5)学部長裁量経費が不足したので援助することができなかった。特に援助しなくても外部資金は昨年に引き続き、今年も急激に増加している。
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
(1)科研申請率100%(教員全員が新規申請と継続のいずれかに該当する。ただし、特別な理由がある教員を除く)を目指す。 (2)科研新規採択率30%以上を目指す。 (3)外部資金獲得(共同研究、受託研究、奨学寄付金)額は過去5年平均値の5%増加を目指す。	
③社会貢献(診療を含む)領域	自己評価
③-1 目標 「海外の大学との交流事業の推進」として以下を実施する。 (1)ミャンマーとの連携について、関連他大学とともに推進(研究科と協力して実施) (2)ウエイン州立大学、サンノゼ州立大学との研究における関係強化(研究科と協力して実施) (3)エラスムス・ムンデス(EUと日報)による学生および教員交換制度の活用(研究科と協力して実施) また、以下を継続実施する。 (4)地域の小中学生向けの工学実験教室の開催 (5)杭州市内と岡山県内の地域の小学生向け体験型実験教室の開催 (6)産官学が連携した研究会の事業(岡山情報通信技術研究会など多数) (7)国立大学53工学系学部長会議下の大学連携推進委員会に協力 (8)表彰(社会貢献賞)の実施 新たに、 (9)高島屋における夏季サイエンスフェアの実施(理学部、環境理工学部、農学部と合同)	目標で掲げた項目はすべて実施した。 (1) ミャンマー工学教育拡充プロジェクトの幹事校(長崎大学)の依頼に基づき、教員1名を工学部で受入れ、受け入れ教授が1ヶ月間の研修を実施した。また、ミャンマー教員に対する研修、研究指導等のため、述べ3名の教員が現地へ赴いた。国内では、数名の教授が科目別委員会委員や国内支援委員会委員に出席している。さらには、ミャンマー教員9名を博士後期課程学生として、8名の自然科学研究科(工学系)教授が受入れている。 (2)ウエイン州立大学カルマノスがん研究所から学生1名を決定受け入れしている。さらに、がん幹細胞分野で新たな共同研究を始めるにあたり、先方に新設された共同利用研究施設を視察するとともに共同研究内容について協議し意見交換を行った。これを基に、共同研究契約の締結に向け交渉を進めている。 (3)岡山大学事務所としてシリコンバレーオフィスをサンノゼ近郊フリーモントに開設した。事務所開設にあたり、サンノゼ州立大学、サンノゼ市、岡山市の各方面からの支援を依頼するとともに、サンノゼ州立大学とサイバーセキュリティ関連の共同研究を推進している。医療機器分野の共同研究展開に関しても、共同研究先等を探索中である。 (4) 地域の小中学生に科学の魅力を知ってもらうため、工学実験教室などを年に12回開催し、延べ514名が教室に参加した。 (5) 中国(杭州市内・廈門市内)や岡山市内の小学校などで体験型実験教室を4回開催し、延べ150名の小学生に国際的な視点で化学の魅力などを発信した。 (6) 産官学(企業、県、市、工学部)で構成する岡山情報通信技術研究会を年度内に5回開催し、情報や意見を交換した。その他、各グループで研究会を実施している。 (7) 副委員長として、大学連携推進委員会や同ホームページ委員会の事業等を審議の上、工学の魅力の情報発信に努めた。 (8) 3月2日開催の教員会議にて、社会貢献賞として6名の教職員を表彰した。 (9) 工学部が提案した「岡山大学サイエンス実感フェア2015」に教育学部、理学部、環境理工学部、農学部が参加し、7月24日から7月27日までの4日間で、小学生を中心に延べ2802名が参加するなど、社会に対して理工系分野の魅力を発信した。
③-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
特になし。	
④管理運営領域	自己評価
④-1 目標 「教育研究組織の再編」として、以下を実施する。 (1)学部大学院融合会議(自然科学理工系執行部会議)の継続 (2)自然科学研究科における医工連携新専攻設置に関する協力 (3)効果的な予算配分と経費削減として、以下を継続実施する。 (4)会議開催の効率化(資料のPDF化と事前配布、最長2時間、17時以降は原則禁止) (5)資料ごとの電力、ガス使用量・金額の点検 また、教員間のコミュニケーション円滑化と情報共有化、意識改革を図るため、以下を継続実施する。 (6)教員会議(全教員対象、年4回)の実施(継続) (7)「工学部長室だより」電子メールの配信(毎月)(継続) (8)教職員からの意見箱設置(継続) (9)准教授会の開催(継続)	左記の項目は(1)、(8)以外はすべて実施した。(1)の会議は定期的に実施せず、必要に応じて部局長同士が意見交換をしている。(8)は決議のための会議ではなく、また、60分と4学期制に対応するために教育見直しWGを頻りに開催するとともに、教職員研修会の開催等ではほぼ代替できたと考えている。 (2) 生命医学工学専攻の設置に協力するとともに、学部の立場から新専攻の管理・運営に協力した。また、10月から2週間に1回の頻度で開催している医療科学連携大学院設置検討WGに工学部の教員である生命医学工学専攻長が参加し、新研究科設置に向けた検討を行っている。 (3) 会議を概ね1時間から1時間半で終了させ、また、概ね17時以前に終了させるなど、効率化に努めている。 (5) 教員会議を年4回(4月2日、7月1日、12月2日、3月2日)開催し、大学及び工学部の状況や情報を教職員に対して提供した。 (6) 学部長と副学部長3名が執筆する工学部長室だよりを、毎月教職員にメール配信した。 さらに、目標として記載した項目以外に新たに以下を行った。 ・「大学改革のための教員・事務職員の異職種合同リダシップ研修」(12月19日)を事務職員と教職員が合同で、岡山大学を魅力ある大学に改革していくために、問題点を洗い出し、通常業務の改善を通して、何が貢献できるかを等議論し、お互いの認識が深まり、実りある研修会となった。
④-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
特になし。	
【総括記述欄】	
各目標は、以下の状況である。 (1) 志願倍率(前期日程)は、目標(2.3倍)を下回った。その原因分析を行い、来年度の活動に反映したい。広報には力を入れた。 (2) 科研の申請率は目標を達成できたものの、採択率は目標を達成できなかった。研究科と協力し、改善してゆきたい。 (3) 共同研究、受託研究、奨学寄付金等の外部資金獲得については、目標を十分達成できた。今後も継続して強化してゆきたい。 目標として記載した項目以外に、大学改革のための教職員合同の研修会を開催するとともに、ベストティーチャー賞受賞者に対して、新たに、教員会議で10分程度で工夫した点などポイントを紹介してもらうようにした。 各項目については、上記に記述したように積極的に検討、あるいは実施した。	